

新型コロナウイルス 感染予防事典 Vol. II

〈テーマは“次亜塩素酸水”〉

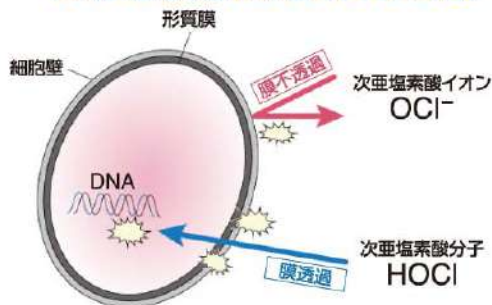


『次亜塩素酸ナトリウム』と『次亜塩素酸水』

次亜塩素酸と聞くと、キッチンハイター(花王)やブリーチ(ライオン)、またカビキラー(ジョンソン)などの商品を真っ先に思い浮かべられるでしょう。それら商品の主成分は次亜塩素酸ナトリウムで、優れた除菌効果があります。しかし、アルカリ度が強く、手袋なし

で使用して液が手の表面に付くと、タンパク質を分解するためヌルヌルします。次亜塩素酸イオン(次亜塩素酸ナトリウム)は分子サイズが大きく、細胞壁を透過できません。一方、次亜塩素酸水は、次亜塩素酸が水に溶け込んでいる状態のもので、次亜塩素酸は分子サイズが小さく、電気的中性という性質があります。

図1 [次亜塩素酸の除菌のメカニズム]



そのため、微生物の細胞壁や形質膜を通り抜け内部に侵入しやすく、細胞機能に必須な酵素や組織に対して酸化作用を及ぼすことで不活化する(図1)ことができます。また次亜塩素酸水は有機物に反応すると瞬時に無力化し、次亜塩素酸水自体も反応後は水になる性質があります。[次亜塩素酸は生体内の白血球(好中球)でも産出され、細菌を攻撃する役割も有しています]。この様に次亜塩素酸水は高い除菌力と、その取り扱いやすさが特長です。

新型コロナウイルスの除菌

NITE(製品評価技術基盤機構)は今年6月29日、新型コロナウイルスに有効な消毒・除菌方法についての試験結果を報告(公開)しました。石けんやアルコールなどのほかに次亜塩素酸水についても、用法用量を守って使用することで、新型コロナウイルスに対して有効な除菌方法であることが、試験結果に基づいて示されました。

ひーりんぐマガジンが、注目している「次亜塩素酸水」は、新型コロナウイルスの除菌にも有効で、幅広い抗微生物スペクトル(増殖阻止作用を示す微生物の範囲)を持っています。(図2)

図2 [次亜塩素酸水の抗微生物スペクトル]



治療院内の除菌

人の出入りのある治療院においては、日々の感染予防対策に悩まれていることでしょう。患者を治療後に一定の濃度の次亜塩素酸水を空間に噴霧することで、除菌と消臭にさらなる効果があることをご存知でしょうか。特に噴霧により室内のモノに付着した菌やウイルスの除菌に効果があります。

空間に噴霧できるモノとして、その噴霧される液剤の安全性なども考慮すると次亜塩素酸水は非常に有用

です。しかし、経済産業省・厚生労働省・消費者庁の連名で、「消毒効果を有する濃度の次亜塩素酸水を噴霧する場合、無人の時間帯に行うなど、人が吸入しないような注意が必要である」との見解が出されました(令和2年6月26日)。

これは噴霧に対して現時点で確立された試験方法がないため、安全性が不十分であることから上記のような判断が出されたものと推測します。

ご提案

来院される患者にご安心いただくために、お昼休みなどの人のいない空間に次亜塩素酸水を噴霧して、院内の感染対策をしてはいかがでしょうか。簡単に清掃できない場所なども、噴霧により除菌や消臭が期待できます。